

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和2年7月9日(2020.7.9)

【公表番号】特表2019-522044(P2019-522044A)

【公表日】令和1年8月8日(2019.8.8)

【年通号数】公開・登録公報2019-032

【出願番号】特願2019-515772(P2019-515772)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/16 (2006.01)

A 6 1 P 21/02 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/14 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/08 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/02 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

A 6 1 K 38/22 (2006.01)

C 0 7 K 14/50 (2006.01)

C 0 7 K 14/475 (2006.01)

C 0 7 K 16/28 (2006.01)

C 0 7 K 16/22 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 25/00 Z N A

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/16

A 6 1 P 21/02

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 25/14

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 25/08

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 25/02

A 6 1 P 37/02

A 6 1 K 38/22

C 0 7 K 14/50

C 0 7 K 14/475

C 0 7 K 16/28

C 0 7 K 16/22

【手続補正書】

【提出日】令和2年6月1日(2020.6.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

対象の中枢神経系における体液の流れを増加させる方法であって、
中枢神経系における体液の流れの増加を必要とする対象を決定する工程;及び
必要とする対象の髄膜腔に、VEGFR3アゴニスト又は線維芽細胞増殖因子2(FGF2)の有効量を投与する工程を含み、
それによって、VEGFR3アゴニスト又はFGF2の前記量が、対象の髄膜リンパ管の直径を増加させる方法において使用するための、VEGFR3アゴニスト又はFGF2の有効量を含む組成物。

【請求項2】

体液の流れの増加を必要とする対象を決定する工程が、神経変性疾患を有する対象を決定する工程、神経変性疾患に対する危険因子を有する対象を決定する工程、又はその両方を含む、請求項1に記載の使用のための組成物。

【請求項3】

体液の流れの増加を必要とする対象を決定する工程が、アルツハイマー病を有する対象を決定する工程を含む、請求項2に記載の使用のための組成物。

【請求項4】

体液の流れの増加を必要とする対象を決定する工程が、アポリポタンパク質-E-イプシロン-4(apo-E-イプシロン-4)についての二倍体、apo-Jにおけるバリエント、ホスファチジルイノシトール結合クラスリン集合タンパク質(PICALM)におけるバリエント、補体受容体1(CR3)におけるバリエント、CD33(Siglee-3)におけるバリエント、若しくは骨髄細胞において発現するトリガー受容体2(TREM2)におけるバリエント、高齢、家族性AD、認知症の症状、又は列挙した危険因子のいずれかの組み合わせからなる群から選択されるADに対する危険因子を有する対象を決定する工程を含む、請求項2に記載の使用のための組成物。

【請求項5】

対象の中枢神経系が、アミロイドベータ斑を含み、体液の流れの増加が、アミロイドベータ斑の量を低減させる、請求項1から4のいずれか一項に記載の使用のための組成物。

【請求項6】

蓄積したアミロイドベータ斑の少なくとも一部が、対象の脳の髄膜にある、請求項5に記載の使用のための組成物。

【請求項7】

神経変性疾患又はそれに対する危険因子を有する対象における蓄積したアミロイドベータ斑の量を低減させる方法であって、
神経変性疾患又は前記危険因子を有する対象を決定する工程;及び
対象の髄膜腔に、VEGFR3アゴニスト又はFGF2を投与する工程を含み、
それによって、対象の中枢神経系における体液の流れが増加し、
それによって、対象における蓄積したアミロイドベータ斑の量が低減する、
方法において使用するための、VEGFR3アゴニスト又はFGF2を含む、組成物。

【請求項8】

VEGFR3アゴニスト又はFGF2を含む、組成物であって、対象の中枢神経系(CNS)からの分子のクリアランスを増加させ、増加したクリアランスが対象における神経変性疾患の症状を処置、予防又は改善する方法であって、
対象の髄膜腔に、前記組成物を投与する工程を含み、
それによって、対象のCNSにおける体液の流れが増加し、

それによって、対象のCNSからの分子のクリアランスが増加する、
方法において使用するための、組成物。

【請求項 9】

対象のCNSからの分子のクリアランスの増加が、CNSから深頸リンパ節への分子の移動の割合の増加を含む、請求項8に記載の使用のための組成物。

【請求項 10】

神経変性疾患が、アルツハイマー病(AD)、認知症、パーキンソン病、脳浮腫、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、小児自己免疫性溶連菌感染関連性精神神経障害(PANDAS)、髄膜炎、脳出血、自閉症スペクトラム障害(ASD)、脳腫瘍及びてんかんからなる群から選択される、請求項2から9のいずれか一項に記載の使用のための組成物。

【請求項 11】

VEGFR3アゴニストが、VEGF-c、VEGF-d、これらのアナログ、バリエーション及び断片、又はこれらのいずれかの組み合わせからなる群から選択される、請求項1から10のいずれか一項に記載の使用のための組成物。

【請求項 12】

使用が、VEGFR3アゴニスト又はFGF2を、対象の髄膜腔に選択的に投与することを含む、請求項1から11のいずれか一項に記載の使用のための組成物。

【請求項 13】

方法が、経鼻投与、経頭蓋投与、対象の脳脊髄液(CSF)との接触、対象のCSFへのポンプ注入、頭蓋骨若しくは脳への埋入、対象の菲薄化頭蓋骨若しくは頭蓋骨の部分とVEGFR3アゴニスト若しくはFGF2との接触、VEGFR3アゴニスト若しくはFGF2をコードする核酸の対象における発現、又は列挙した経路のいずれかの組み合わせからなる群から選択される経路によって、組成物を対象に投与することを含む、請求項1から12のいずれか一項に記載の使用のための組成物。

【請求項 14】

増加する体液の流れが、脳脊髄液(CSF)、間質液(ISF)、又はその両方の流れの増加を含む、請求項1から13のいずれか一項に記載の使用のための組成物。